

豊岡偉人伝 8

私たちの暮らしの発展に尽くし、近代日本の礎を築いた人、スポーツ・芸術の普及発展に心血を注いだ人など、豊岡にはさまざまな先人たちの心が息づいています。

その先人たちに学び、志を引き継ぎましょう。

《問合せ》文化振興課 ☎23-1160

軍国主義に屈しなかった憲政の神様 齋藤 隆夫

齋藤隆夫

(1870~1949)

出石町出身 弁護士・政治家

- 1870年 出石町中村に生まれる
- 1891年 21歳 東京専門学校(現早稲田大学)行政科に入学
- 1895年 25歳 弁護士試験(現司法試験)に合格
- 1898年 28歳 弁護士開業
- 1901年 31歳 エール大学(アメリカ)に入学
- 1912年 42歳 衆議院議員に初当選
- 1920年 50歳 衆議院議員に落選
- 1924年 54歳 衆議院議員当選(4回目)
- 1929年 59歳 内務政務次官就任
- 1931年 61歳 法政局長官就任
- 1932年 62歳 内務政務次官就任
- 1936年 66歳 肅軍に関する質問演説を行う
- 1940年 70歳 日中戦争の処理に関する質問演説を行い、衆議院議員を除名される
- 1942年 72歳 衆議院議員当選(10回目)議員勤続25年表彰を受ける
- 1946年 76歳 国務大臣就任。行政調査部総裁就任
- 1949年 79歳 衆議院議員当選(13回目)10月7日逝去(享年80歳)従三位に叙し勲一等を授かる



齋藤隆夫と但馬政界

齋藤は初当選以来、3回連続で当選を果たしましたが、4回目の選挙で落選しました。金権政治がはびこる中、率先して普通選挙を唱えた理想主義者の齋藤が落選したことに、地元出石の青年たちは憤りを覚えました。

そのような青年層を中心に組織された出石郡立憲青年党は、齋藤の応援活動の輪を広げていき、次の衆議院議員当選への後押しとなりました。青年党が齋藤の援助を訴えた護憲演説会(出石永楽館劇場)では、当時の交通事情を考えると極めて多い千人以上の聴衆が集まりました。

このとき得た青年層の大きな支持は、齋藤の政治的基盤を確立する契機となるとともに、但馬の政界に革新をもたらしました。

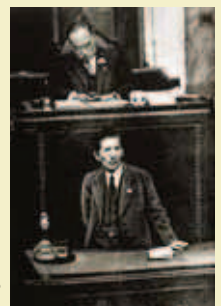
肅軍演説

一切原稿を持たない齋藤の演説には定評がありました。数日前に庭を歩きながら原稿を暗記して演説に臨んだといいます。

1936年5月に衆議院本会議上において1時間に及ぶ肅軍演説を行い、「軍人の政治活動は厳禁すべきだ」と糾弾し、また1940年2月には日中戦争処理に関する質問演説の中で「聖戦とは言っても、それは空虚な偽善である」などと述べ、軍部を痛烈に批判しました。このことで、陸軍の反感を買って懲罰委員会にかけられて衆議院議員を除名処分となりました。

しかし、1942年に行われた総選挙ではトップ当選を果たし、国会に再び咲きました。このよう

な齋藤の弁舌は、軍部が台頭する時代において、危険を顧みない大きな武器となりました。



▲1936年特別議会の肅軍演説(朝日新聞社撮影)

▶齋藤隆夫の直筆



1940年に受けた除名後の感懐
「吾が言は、即ち是れ万人の声
褒貶毀誉は世評に委す
請う看よ百年青史の上
正邪曲直、自ずから分明」

静思堂 —齋藤隆夫記念館(出石町中村)—

齋藤の遺徳をしのぶために建てられた記念館。

「静思」とは、「むづかしく考えず、静かに思いをめぐらせる」という意味で、大局から日本を見つめ、自身を見つめることを忘れなかった齋藤の思想からくるものです。生前に着用していた衣類や、直筆の書道作品などゆかりの品が展示されています。



●発行／豊岡市
☎07961231111
市長室 FAX 2411004
●編集／政策調整部秘書広報課
FAX 2311124

〒668-8666
兵庫県豊岡市中央町2番4号
URL http://www.city.toyooka.lg.jp

(総合支所)
・竹野 ☎4711111
・出石 ☎5231111
・城崎 ☎3210001
・日高 ☎4211001
・但東 ☎5410001